

◎景気ウォッチャー調査[2020年1月]

2020年1月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を0.9ポイント上回る40.6となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「キャッシュレス・消費者還元事業の効果もあり、客の来店頻度が上がり、来客数は前年比102.2%で推移している。」(スーパー)、「最近になって消費税の引上げに対する警戒感が収まりつつあり、来客数も天候に恵まれ、増加しつつある。」(一般レストラン)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加し、「悪くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を1.0ポイント上回る39.8となった。

企業動向関連は、「良くなっている」の回答の割合が減少し、「しけど少なくとも物がはげず、注文もかなり少ない。」(農林水産業)、「受注量が生産能力の半分しかなく非常に厳しい状況に陥っており、雇用調整助成金の受給の手続きを進めている。」(金属製品製造業)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.2ポイント下回る42.4となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が増加し、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を2.9ポイント上回る42.6となった。

	1月	12月	前月差
合計	40.6	39.7	0.9
家計動向関連	39.8	38.8	1.0
企業動向関連	42.4	42.6	-0.2
雇用関連 (参考値)	42.6	39.7	2.9

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を1.0ポイント下回る42.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「暖冬でエアコン等の冬物商材の売行きが鈍くなる。」(家電量販店)、「新型コロナウイルスの影響で中国人の乗車が激減しており、今後も3~4月の花見シーズンまでは厳しい状況が続く。」(タクシー運転手)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.1ポイント下回る44.3となった。

企業動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「客からの引き合いが激減し、生産量は定時間操業を大幅に割り込む。明るい兆しはなく、5月の連休までの回復は見込めない。」(金属製品製造業)、「主要客からの受注は、前回内示よりも大幅な減少となっており、今後も景気は悪くなる。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を3.3ポイント下回る38.6となった。

雇用関連は、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.9ポイント下回る41.2となった。

	1月	12月	前月差
合計	42.9	43.9	-1.0
家計動向関連	44.3	44.4	-0.1
企業動向関連	38.6	41.9	-3.3
雇用関連 (参考値)	41.2	44.1	-2.9